

# 開運！ 結城七福神めぐり

## 七福神詣と七福神



七福神詣では、新年に七福神の神社や寺院に福德を祈るために参拝してまわることです。七福神は、幸福と財宝を与える七柱の神のことで、一般的には、恵比寿(夷など)・大黒天・福祿寿・毘沙門天・布袋・寿老人・弁財天のことをいいます。このうち福祿寿と寿老人は、同じであるとして寿老人を除いて吉祥天を加えたこともありました。もとは福神として個別に信仰されていたものを「七」という縁起の良い数(聖数)にあてて、ひとまとめにしたのが七福神であり、定着したのは江戸時代の後期です。

「宝船」は、米俵・千両箱・打出の小槌などの宝貨を積んだ帆掛け舟に七福神を描いた縁起物で、正月2日の夜、初夢に宝船の絵を枕の下に入れ、吉夢をみるという風習があります。

## 結城七福神の寺社と福神

### 1. 金光寺(キンコウジ)と寿老人(ジュロウジン)

金光寺は、慶壽山金光寺といい、真言宗豊山派のお寺です。開山は正治2年(1200年)結城初代朝光公が当地に観音堂を建立し「聖観世音菩薩」を祀り、同公の守り本尊としたと伝わっています。本堂の建立は結城家12代持朝公によって行われたことが寺伝にあります。享保18年(1734年)に再建され、昭和58年(1983年)に改修されました。山門の梁に結城家の財宝のありかが秘められるといわれる三首の和歌が刻まれています。

こうりょうに ふれてからまる うつ若葉 つゆのなごりは すえのよまでも

カラムシ マンダイ  
きの苧 かふゆうもんに さくはなも みどりをのこす 万代のたね

あやめさく 水にうつろう かきつばた いろはかわらね 花のかんばし



金光寺の福神は寿老人で、長寿を授ける中国の神です。長い髭を垂らし、長頭が特徴で、杖を突き、杖の先に二つの桃(中国では桃が長寿のシンボル)がついていて、鹿(中国では長寿を表す動物)を連れています。

### 2. 市杵島神社(イチキシマジンジャ)と弁財天(ベンザイテン)

市杵島神社の祭神は市杵島姫命で、弁天島の地に天正19年(1591年)に創建されました。この女神は、福岡県の宗像神社の祭神の宗像三柱の一柱です。この神が日本に仏教が伝えられたとき神と仏が調和すること(真仏習合)で、弁財天にあてられました。弁財天は市杵島神社が無住なため孝顕寺に保管されています。



市杵島神社の福神は弁財天で、音楽の神、学問の神、さらには幸運や財宝、子宝を授けるというインドの神で、七福神の中で唯一の女神です。なお、弁財天と書かれるようになるのは、鎌倉時代以降のことです。その姿は、本来は八ツのひじ(八臂)をもち、弓・矢・刀・金剛杵(もとはインドの武器)などを持っていましたが、のちに二ツのひじ(二臂)となって、琵琶(楽器の一つ)を手で奏でる形が多くなりました。(当社の像容は前者です)

### 3. 毘沙門堂(ピシャモンドウ)と**毘沙門天**(ピシャモンテン)

下総州結城絵図(享保19年(1735年)に多聞寺毘沙門堂とあります。元は多聞寺と称した寺院であったらしいが、明治の初年廃寺となり光福寺境外仏堂として残ったものと思われます。成立は、1735年以前と考えられます。現拝殿は、明治27年(1894年)再建されました。



毘沙門堂の福神は毘沙門天で、毘沙門天は四天王(四方にて仏法僧を守護する四神)の一人、多聞天のことである。単独で祀られる場合は、毘沙門天と呼ばれます。中世を通じて福の神として信仰されています。江戸時代以降は勝負事に利益ありとあがめられています。鎧兜を身につけ、左の掌に宝塔をのせ、右手には三叉の矛を持ったインドの神で、この毘沙門天立像は市指定文化財です。

### 4. 蛭児神社(エビスジンジャ)と**蛭児**(エビス)

蛭児神社の創立された時期は不明ですが、宝暦6年(1756年)再建されたという記録が残っています。拝殿は、明治29年と平成20年に改修されています。この神社の登記上は漢字で「蛭児神社」と書き、読みは「えびすじんじゃ」と読みますが、「えびす」はいろいろな漢字があてはめられて、夷、戎、胡、恵比須、恵比寿、恵美須、恵毘須、蛭子、蛭児などと表記されています。



蛭児神社の福神は、蛭児です。蛭児神社の祭神は大国主命の子である事代主命です。事代主命の尊称が「えびす」なので蛭児神社といえます。「えびす」は、古くは「大漁追福」の漁業の神でした。時代と共に福の神として「商売繁盛」や「五穀豊穰」をもたらす商業や農業の神となりました。七福神のなかでは唯一日本由来の神様です。その姿は、風折烏帽子を着付け、鯛を左わきに抱え、右手で釣竿をもっているのが一般的です。

### 5. 大輪寺(ダイリンジ)と**大黒天**(ダイコクテン)・**布袋**(ホテイ)

大輪寺は如意山観音院大輪寺といい、真言宗豊山派の寺院です。創建年は不詳ですが、創建時は、常陸国河内郡田河原にあって大輪坊といわれました。慶長3年(1598年)頃に現在地に移されました。現本堂は平成3年(1991年)建替えられました。観音町にあった境外仏堂である人手観音堂が、令和2年(2020年)大輪寺境内に移されました。木像大黒天像(江戸時代初期作・市指定文化財)・石造大黒天像と人手観音堂から移された石造布袋像があります。



大輪寺の福神は、大黒天と布袋です。大黒天は、インドの神で飲食を司る台所の神とされていました。日本に伝来して、大国主と混同され習合して定着しました。農村では田や畑の神、商家では商売繁盛の神として信仰されました。その姿は、左の肩に大きな袋を担い、右手に打出の小槌をもって、多くは米俵に乗っています。当寺の木像大黒天像は、蓮華座に立っているのが特徴です。



布袋は、中国唐時代末に実在した仏僧布袋和尚を神としたものです。布袋の中に入れたものは財宝になったといわれ福の神の一種として信仰を集め、室町時代後期には七福神に組み入れられるようになりました。その姿は、福德円満な顔で、太鼓腹を露出して、大きな袋を担いでいます。

### 6. 乗国寺(ジョウコクジ)と**福祿寿**(フクロクジュ)

乗国寺は見龍山覚心院乗国寺といい、曹洞宗の寺院です。かつて(1440年以前)は鬼怒川と田川に挟まれた常陸・下野・下総の境にあって号を三国山と称し、寺名を福厳寺といたしました。文明11年(1479年)鬼怒川の大洪水で寺地が流出し、結城14代氏広が現在地に移し、見龍山覚心院乗国寺と改称し再興しました。本堂は文久元年(1861年)に再建されました。



乗国寺の福神は福祿寿です。幸福(実の子に恵まれること)と封祿(財産のこと)と長寿(健康を伴う長寿)を授けるという中国の福神で、姿は長頭で経巻を結んだ杖を持ち、多くは鶴を従えています。